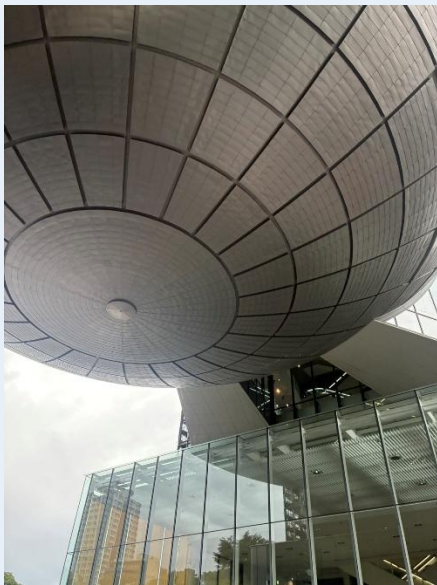


なごや科学館「和やか鯨城」

- ◆ 9月16日（水）なごや科学館 10時集合で参加者 36名
- ◆ 9月に入り、晴れ間の無い天候不順が続いている中、この日は小雨程度の雨模様でしたが多くの方にご参加いただきました。
- ◆ 時間まで各階の観賞、11時20分よりプラネタリウム予約で、9月の星座を鑑賞。
9月と言えば、やはり「十五夜」を何と言っても思い出しますよね！
十五夜が必ずしも満月でないとの事、知っていましたか？



そこで《豆知識》

「十五夜」は必ずしも満月とは限らない！ その理由とは？

「十五夜の日が満月」という認識の方も多いかもしれませんが、実は満月は1日ずれることも多いんです。

実際、2026年の十五夜は9月25日ですが、満月は9月27日です。何故なのでしょう？

それは、月は必ずしも15日ピッタリで新月から満月になるとは限らないから。時期によって13.9日～15.6日と大幅に変わります。

そのため「新月の日から15日目」が満月ではないことがあるんですね。

十五夜といえば「中秋の名月」、日本の秋の風物詩という印象が強いですね。

ススキやお団子を飾り、お月見を楽しむ方も多いのではないのでしょうか。

しかし本来、十五夜とは旧暦で毎月15日の夜（月齢15日目の月）を指します。新月から満月になるまで約15日かかることが、この名前の由来です。

2026年の十五夜は、9月25日金曜日です。

なぜ、秋の十五夜である旧暦の8月15日だけが知名度が高くなったのでしょうか。諸説ありますが、秋は空が澄み渡って月の高度もほどよく、お月見に適した季節です。

そのため、月を楽しむ習慣が継続しているのかもしれませんがね。

なお、この15日は旧暦の15日なので、現代のカレンダーとは一致しません

Web より

プラネタリウムでは、夕方より夜明け迄の星座解説で、50分間の天文観賞でした。

終盤は、最近天候不順で夜明けの朝日が見られない中、綺麗な夜明けを鑑賞しながらの短い

1日を体験、今日は2度の夜明けを経験し1日儲けた気分・・・・・・・・

「なごや科学館」鑑賞後、参加者全員参加で「伏見太閤本店」にて、ランチをしながら
懇親をはかりました。

